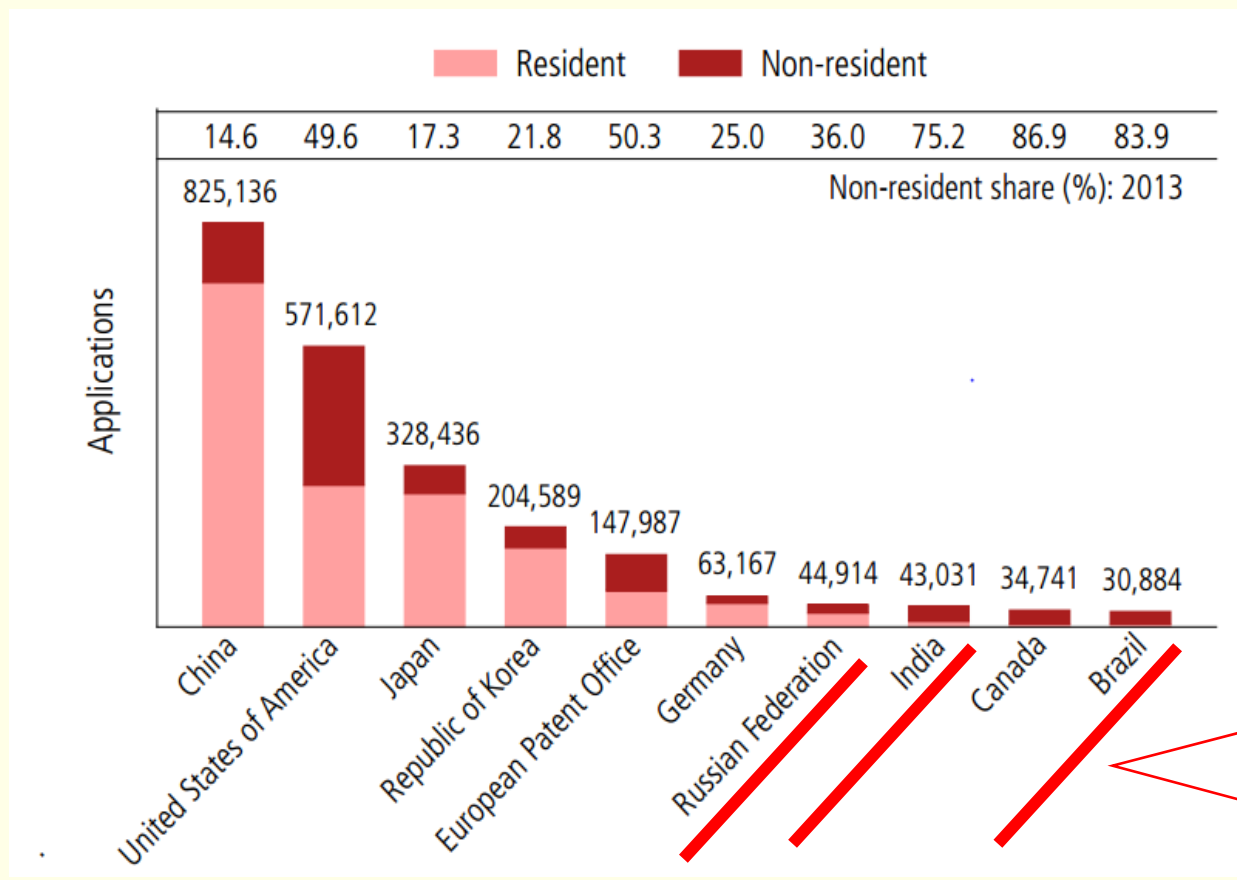


◆ 特許分類

5極のうち日本を除く84%の公報にCPCが付与されるが、日本のユーザーにとって検索しやすい形の分類調和を提言する必要がある。

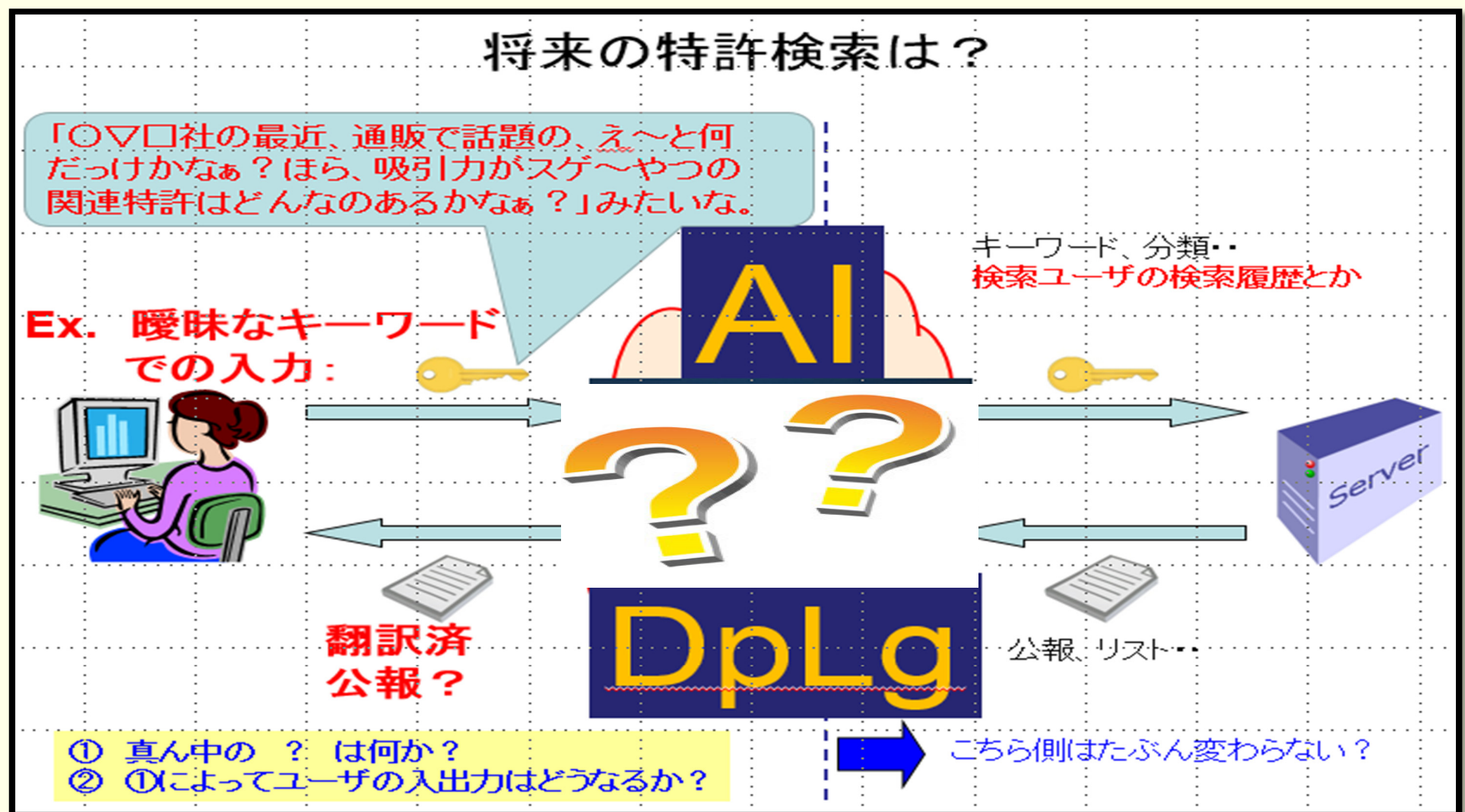
情報収集および検索活用の結果から、検索ユーザーにとって好ましい形の分類調和、DBの使い勝手等をまとめあげ、各機関、ベンダーにむけJIPAから意見を発信する。

◆ 新興国の特許状況



内国人出願シェア
 ロシア 64%
 インド 25%
 ブラジル 16%

◆ 新しい検索手法の探求



知財ミックスの調査

▲特許 ▲2008/9/3 JP2008225628A JP2008225629A

▲2009/9/24 JP2009219426A

▲2009/10/19 JP2011532719A

●意匠 ●2008/12/8 ●2009/1/16 → ●2009/10/19公開 ●2009/12/21公開

★商標 ★2009/11/25 AIR MULTIPLIER DYSON AIR MULTIPLIER

air multiplier dyson air multiplier

2008 2009 2010 2011

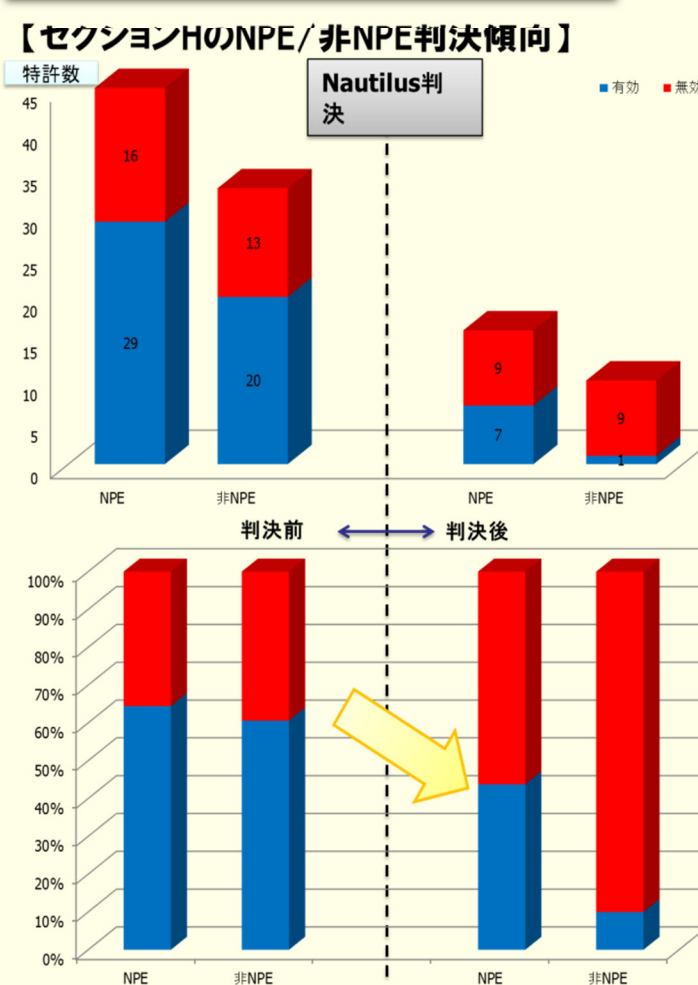
◆製品発売

意匠出願後に製品発売
製品発売直前に意匠公開

AM01 AM02 AM03

◆2009/11/2 ◆2010/9/1

訴訟分析

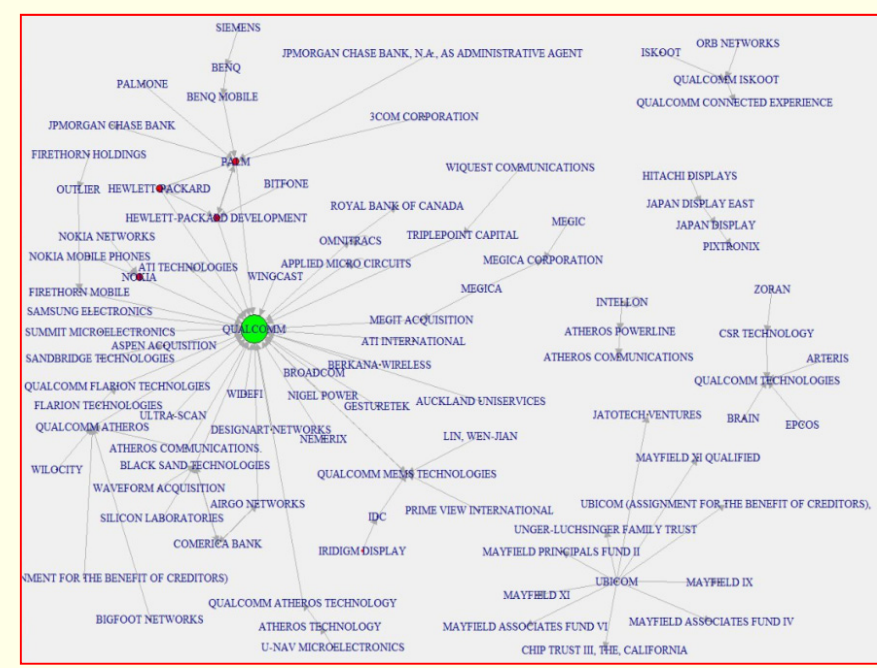


➤ NPEや非NPEの区別なく無効判決はNautilus判決後に増加傾向にある。

➤ 非NPEにおいて、判決後は顕著に無効判決が増加している

Sprint communications保有の通信システム特許の無効判決(6件)など

譲渡分析



マップカタログ

①テーマ全体の盛衰を見る(全体推移)

●当該技術テーマについて、全体の件数の変化を見る。

⇒このテーマ全体が既に市場ニーズがなくなっているのか、これからのテーマなのかを見出すことができる。

⇒傾きの変化した年(図中○印参照)の周辺に注目すると、何かしらのイベント(論文発表、基本特許出願、新製品発表等)が発生している可能性がある。

②競合他社を比較し、強み/弱みを読む

●気になる企業のグラフを並べて比較する。

⇒「多いところ/少ないところ=強み/弱み」を分析することができる。

(発展) 調査項目として、(IPC/FID記号・Fターム等)の特許分類を利用して見ると、そうすることにより、競合他社間の強み/弱みを迅速に見ることができる。

③各社の市場あるいは技術開発の方向性を見る(課題・解決手段)

●各社の特許出願が集中している部分と希薄な部分を把握する。

⇒各社の技術課題とその解決手段の関係が体系的に分かる。

⇒各社の市場あるいは技術開発への参入の可能性を見出すことができる。

また、2社比較をする場合は、右図のようなコンパラマップとして作図することにより、2社の特徴が明確になる。

(注意)

- ◆特許出願が集中している部分においては、競争が激しいことが予想されるが、逆に、その分技術的コストは確立され、リスクの少ない分野であると言えるかもしれない。
- ◆特許出願が少なく希薄な部分については、皆が気づいていない「すまみ技術」の可能性もあるが、逆に、検討しても意味が薄い技術分野のため、誰も手が付けていない可能性もある。
- ◆時系列表示のため、特定の技術課題・解決手段の規模が大きいため、それが現在のトレンドとは限らない。